

トラック輸送情報（平成25年5月分）

平成25年8月2日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：内田 内線28711

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,138,803トンで、前月と比べ総輸送量が約389千トン減少したため、前月比93.0%（季節調整済み103.2%）となり、前年同月との比較では、約214千トン増加したため、前年同月比104.3%の実績であった。

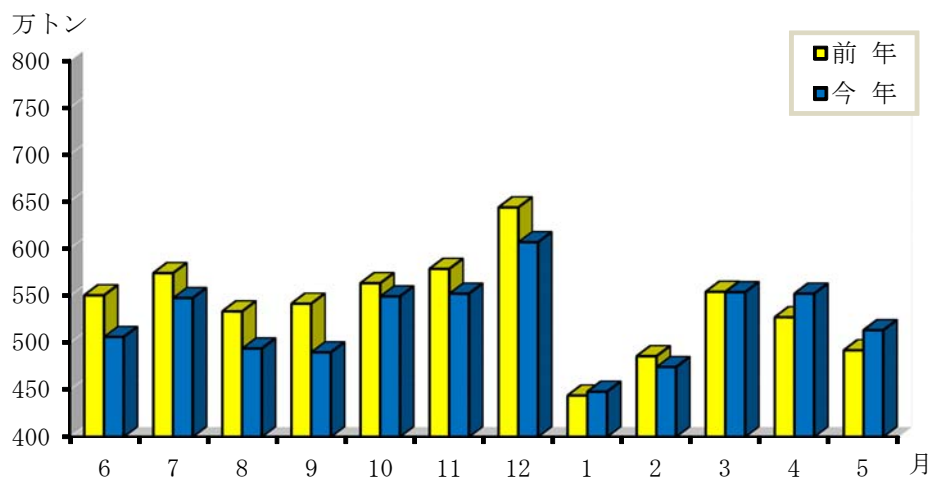
なお、平均稼働日数は23.4日で、前月と比べ0.9日減少し、前年同月との比較では、0.1日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、219,607トンで、前月と比べ約8千トン減少したため、前月比96.5%となり、前年同月との比較では、約8千トン増加したため、前年同月比103.9%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、2社減り、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

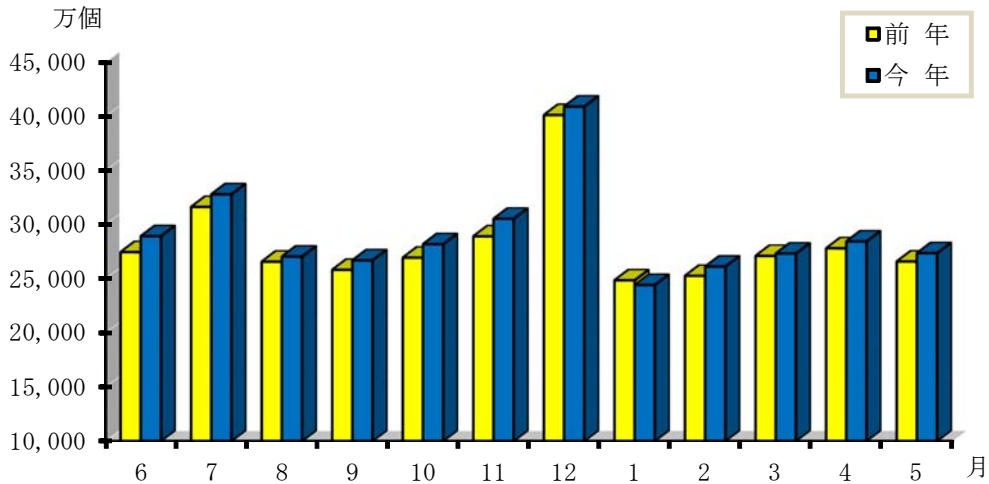


(2) 宅配便の概況

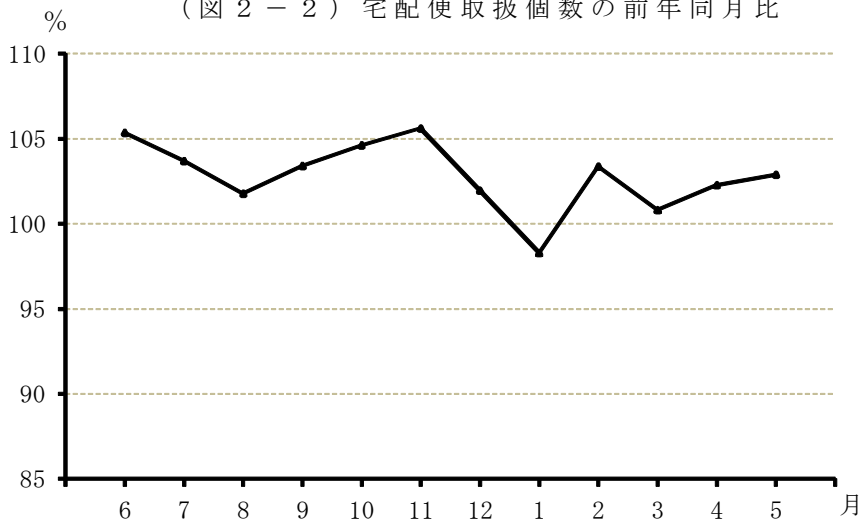
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、273,725 千個で、前月と比べ 約 10,825 千個減少したため、前月比 96.2% (季節調整済み 101.9%) となり、前年同月との比較では、約 7,702 千個増加したため、前年同月比 102.9% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 25 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。主な減少品目は「化学工業品」、「食料工業品」、「日用品」で、その主な減少要因は工場・生産地からの貨物減により輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。「化学工業品」、「食料工業品」、「日用品」の主な減少地域は関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方であった。

前年同月と比べて「日用品」のうち、「その他の日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「日用品」のうち、「書籍・印刷物」の輸送量が減少したと回答する業者があった。また、工場・生産地からの貨物増や倉庫から出る貨物増を要因として「化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	著 減	変 ら ず	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	2		11	4				
	金属製品			16	4				
	機 械			13	6	関東	4		
	化学工業品			12	9	合成樹脂	関東、北陸信越、中部、大阪、近畿	4, 7	
	繊維工業品			15	6		関東地方、中部地方、兵庫	4	
	食料工業品			11	8	その他の食料工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4	
	日 用 品			11	9	1	書籍・印刷物	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	4, 8
	そ の 他	2		10	8		宅配便	全国	8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	11	3				
	金属製品		4	15	1				
	機 械		3	14	1	1			
	化学工業品	1	4	13	3			4, 7	
	繊維工業品		3	14	4				
	食料工業品	2	2	12	3				
	日 用 品	1	4	11	4	1	その他の日用品 書籍・印刷物		
	そ の 他		3	11	3	2			

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者783社/調査対象事業者数1,055社)の輸送量は、前月比 100.2%、前年同月比 104.6%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	104.6 %	108.8 %	104.7 %	103.3 %	101.3 %	103.8 %	100.7 %	103.4 %	104.8 %	101.7 %	106.9 %	
前 月 比	100.2 %	105.2 %	98.5 %	99.9 %	96.0 %	97.1 %	101.3 %	98.7 %	97.2 %	97.5 %	113.6 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比105.2%、対前年同月比108.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物増により「工業用非金属鉱物」が、季節的需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の石油製品」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比98.5%、対前年同月比104.7%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の石油製品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「化学肥料」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比99.9%、対前年同月比103.3%であった。品目別では、季節的需要減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比96.0%、対前年同月比101.3%であった。品目別では、建設関連の需要増により「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比97.1%、対前年同月比103.8%であった。品目別では、景気の影響による貨物増により、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比101.3%、対前年同月比100.7%であった。品目別では、デパート・スーパーからの貨物増により「食料工業品」が、輸出入の貨物増により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、輸出については復調傾向が見られるものの次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比98.7%、対前年同月比103.4%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「金属製品」、「食料工業品」が、季節的需要減により「その他の石油製品」、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比97.2%、対前年同月比104.8%であった。品目別では、季節的需要減により「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比97.5%、対前年同月比101.7%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「機械」が、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比113.6%、対前年同月比106.9%であった。品目別では、季節的需要増により「取り合せ品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		増	減	海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	2	1											3
	減	1	1								2	1		5
2. 野菜・果物	増		2					1	1			8		12
	減		1								5	3		9
3. その他の農産品	増									3		1		4
	減	1								1		2		4
4. 畜産品	増	1												1
	減													
5. 水産品	増	1	1		1							1		4
	減		1				1		1		3			6
6. 木材	増	3	2	1	2								2	10
	減	3	1							1		1		6
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増	2												2
	減	1												1
9. 金属鉱物	増	2												2
	減	1												1
10. 砂利・砂・石材	増	9	1		1					3		4		18
	減	5	1		1	1				2	2	8		20
11. 工業用非金属鉱物	増	3	1		1									5
	減		1							1	3	3		8
12. 鉄鋼	増	2	2				1		1			2	1	9
	減						1		1	6	2			10
13. 非鉄金属	増	1								1				2
	減			1	1		2							4
14. 金属製品	増	1	1					1						3
	減		1		1		1	2			5			10
15. 機械	増	2	1		1	3	3	2	1	1				14
	減		2		1	2	2	1	4	11	2			25
16. セメント	増	3	3		1	1			1			2		11
	減	2	1			1			2	2	2			10
17. その他の窯業品	増	1	1		1	1			1			1		6
	減				1		1					1		3

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増											
	減	2			1			1				4
19. その他の石油製品	増	2	3						1			6
	減	4	2		1			2	1	1		11
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21. 化 学 薬 品	増											
	減	1					1		1			3
22. 化 学 肥 料	増	3			1							4
	減	1	4		2			1				8
23. その他の化学工業品	増									1		1
	減			1	1	1		1	1	1	1	7
24. 紙 ・ パ ル プ	増		1			1		1	2	1	1	7
	減		1	2	2		1	3	2	2		13
25. 織 維 工 業 品	増								1			1
	減							1				1
26. 食 料 工 業 品	増	1	2			1	2	6		5	1	18
	減	2	4				1	2	2	4		15
27. 日 用 品	増	2	2	1			2	2		2		11
	減	3		1	2			2	1	3		12
28. その他の製造工業品	増			1		3			1	2		7
	減		1			1			1	2		5
29. 金 属 く ず	増									1	1	2
	減							2		1	1	4
30. その他のくずもの	増								1			1
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	2	2	1				1		1		7
	減	3	2							1		6
32. 廃 棄 物	増		2					4		1		7
	減	2	2		1			1	1	1		8
33. 輸 送 用 容 器	増											
	減				1				1	2		4
34. 取 り 合 せ 品	増							1		1	2	4
	減	1	1		1			3		1	1	8
35. そ の 他	増	2			3	1	3		3	4		16
	減	1	2	2	3	1	2	1	1	4		17